

脳卒中 [歩行V]

2-P2K-17-5 脳卒中片麻痺患者に機能的電気刺激装置と免荷式トレッドミル歩行トレーニングを併用した1例

関西リハビリテーション病院リハビリテーション部

新原 正之, 早川万紀子, 足立あやめ, 松本 憲二, 坂本知三郎

【背景】

脳卒中片麻痺患者の歩行能力を改善させる1つの方法として、機能的電気刺激装置 (FES) の使用が挙げられ、様々な文献で歩行訓練での FES の使用や他の訓練との併用効果があるとされている。今回、歩行速度と歩容の改善を目的に慢性期脳卒中患者に対して FES 単独の訓練と FES と免荷式トレッドミル歩行トレーニング (BWSTT) を併用した訓練を実施した。その1例について報告する。

【対象と方法】

対象は当院に入院した慢性期脳卒中患者1名。FESは「ウォークエイド」を使用した。BWSTTを併用した介入を11日間毎日20分程度行い、歩容の崩れの無い範囲で訓練の歩行速度を増大、電気刺激量は減少させた。また、FES単独の訓練は毎日30分程度実施した。評価項目はFESの装着なしで10m歩行速度と歩数、SIAS(Foot-Pat Test)、足関節背屈ROM・Modified Ashworth Scale(MAS)、歩容の変化は動画撮影を行い定性的に捉えた。

【結果】

介入前後の値は10m歩行速度 (m/s) : [1.06] → [1.60] 歩数 (歩) : [19] → [15], SIAS : [2] → [3], 足関節背屈ROM(°) : 自動 [-10] → [-5], 他動 [5] → [5], MAS : [2] → [1+], 歩行 : 歩行時の足部内反の減少, [杖と短下肢装具で自立] → [短下肢装具で自立] であった。

【考察】

先行研究通り、歩行速度に大幅な改善を認めた。しかし、歩容に関して装具なしでの歩行も可能となったが、実用的な歩行の獲得には至らなかった